



第七號
澳國行政裁判院設立三關スル法律
千八百七十九年
十月廿二日

大隈 殿

山 田



114
A2693
98



政裁判院設立ニ関スル法律
千八百七十五年十月廿二日

朕帝國議會兩院ノ兼諾ヲ經テ左ノ如ク裁可ス
第一條(行政裁判院ノ設立及ヒ其位地)

千八百六十七年十二月二十一日ノスタツゴロウニドケ
セツ(即憲法ノ本類)第十五條ノ規定ヲ實施セシムル
ニ付キ帝國議會ニ代表セラル、王國及各邦ノ
為メ行政裁判院ヲ置キ其位地ヲ繼納府ニ定ム

第二條(管轄)

行政裁判院ハ何人ト虽モ行政廳ノ法律ニ違背
シタル裁定又ハ命令ニ因テ權利ヲ毀損セラレ

又リト主張スル片總テノ場合ニ付キ裁判ヲ為
 ス可キモノトス
 其為シタル裁定又ハ命令ニ對シ行政裁判院ニ
 抗告ヲ提起シ得ラルヘキ行政廳ハ中央政府ノ
 行政機關並ニ府縣、市郡及町村ノ各行政機關ナ
 リトス

第三條

行政裁判院ノ管轄ニ屬セシメサル事件左ノ如
 第一 通常裁判所ノ裁判管轄ニ屬スヘキ事

第二 件 千八百六十七年十二月二十一日ノスタツ

ゴロニドゲセツツニ依リ帝國裁判所ノ権限ニ
 第三 屬スル事件
 第三 同上法律ニ依リ帝國各半部（澳國及ヒ白牙利國ヲ指スノ義）
 共同シテ管理施行スル事件
 第四 同上法律ニ依リ帝國各半部同一ナル泉
 則ニ因リ管理施行スル事件但抗告セラハ
 裁定又ハ命令カ法律ノ規定ニ依リ帝國各半
 部ノ共同行政廳又ハ帝國各半部ノ一方ノ行
 政廳ノ共同認ヲ以テ發シタルモノナルハ
 同一ノ方法ニ於テ合意シタル規則ニ基因シ
 第五 行政廳自己ノ意見ニ依テ処分スヘキ権

アノ事件

第六 公然ノ職員及官吏ニ任命セラレ、丁ニ

関シテ為ス抗告但主張シタル自薦權

又ハ就職權ノ毀損ニ関セサル場

第七 懲戒事件

第八 最高等裁判所カ終審トシテ為シタル

行政上ノ裁判ニ對スル抗告並ニ行政官及裁

判官ヲ以テ組織シタル或ル審級カ為シタル

第九 課税評議委員ノ裁定及命令ニ對スル抗

告

第四條

行政裁判院ハ職權ヲ以テ其管轄權限ヲ取調フ

可キモノトス

管轄ニ非ラスト申立ル異議ニ付テハ行政裁判院自

ラ之ヲ裁判スルヲ例トス

第五條(行政裁判院ノ裁判權ニ関スル通則)

行政裁判院ハ當事者ノ訴告ヲ俟テノ之審判ス

可キモノトス

抗告ハ其事件ニ付キ行政上ノ方法ニ於テ終局シタ

ル後始テ行政裁判院ニ提起スルヲ得

抗告ハ行政上ノ裁定級ヲ懈怠シテ提起シタルハ

行政裁判院ニ於テ之ヲ受理ス可ラス

行政裁判院ニ於テ之ヲ受理ス可ラス

第六條
 行政裁判院ハ最終ノ行政上裁定ニ抗テ視認
 メタル事体ニ憑據ス可キモノトス
 然レ行政裁判院ハ事体ヲ記録ニ相違シアルモノ
 ト認メ又ハ其重要ナル点ニ補充ヲ必要ト為
 シ又ハ行政上審判手續ノ重要ナル程ニ違
 フラサルヲ發見シタルハ攻撃ヲ受ルル裁定又
 ハ命令ハ審判手續ヲ完全ニ終サ、ルノ理由
 ヲ以テ之ヲ取消シ且其事件ヲ行政廳ニ還付ス
 可シ其行政廳ハ欠缺ヲ補正シタル後新々ナル
 裁定又ハ命令ヲ為ス可シ

第七條

行政裁判院ハ抗告ヲ理アリト認メタルハ其理由
 ヲ掲ケ攻撃ヲ受クル裁定又ハ命令ヲ法律ニ違
 背スルモノトシテ取消ス可シ
 行政廳ハ其事件ニ付キ他ノ新ナル命令ヲ為ス
 ノ義務アリ此場合ニ方テ行政廳ハ行政裁判院
 ノ判決ニ於テ依拠採用シタル法義ニ羈束セ
 ルモノトス

第八條
 行政裁判院ハ法律及規則ノ効力ニ付キ審査ス
 ルノ權利ハ通常裁判所ト同一ナリ

第九條
 行政裁判院ト通常裁判所トノ間並ニ行政裁判

院ト帝國裁判所トノ間ニ起ル權限ノ争ニ對ス
 ル裁判ニ付テハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム
 行政裁判第十條(行政裁判院ノ構成及ヒ其職務規則)
 行政裁判院ハ院長一人局長及評定官ノ必要ナル
 負數ヲ以テ構成ス行政裁判院ニ於ケル職務ハ
 給俸ノ政府官吏ニシテ他ノ公然ノ職官ヲ兼又
 ルヲ得サルモノトス
 行政裁判院ノ院長及評定官ノ官等及ヒ俸
 給ハ最高等裁判院ノ院長局長及評定官ト同一
 行政裁判院ノ官負ハ内閣ノ奏薦ニ因リ皇帝之
 ヲ任命ス

寡クモ其正奉數ハ裁判官タルヲ得ル資格ヲ具
 フル者ヲラサレ可ラズ
 行政裁判院ノ官負ハ裁判官受ノ爲ニ設ケタル
 規則ニ從テ待遇セラル、例トス
 殊ニ裁判官ノ權カニ付ラノスタツゴロウシゲセツツ
 第六條及千八百六十八年五月廿一日ノ同法律
 實施法ノ規定ヲ適用ス
 右實施法ニ於テ懲戒裁判所ニ屬セシメタル事
 務ハ行政裁判官ニ付テハ行政裁判院自ラ之ヲ
 行ス
 其他右法律ヲ行政裁判院ノ官負ニ適用ス一キ

抗告申立人ハ抗告ヲ提起スルニ当リ抗告申立人ヨリ本ル行政上裁定又ハ命令ノ取消ニ因リ不利益ヲ被ラシムキ人ニ係リ行政廳ト共ニ訴ルルヲ得

第二十条(抗告状ノ謄本並ニ添付書)

抗告状ハ總テノ場合ニ於テ其謄本ヲ作り且一切ノ添付書ヲ添フ可シ

共同被告者アルハ其各個ニ一本宛ヲ送達シ得ル為メ抗告申立人ハ其申立及添付書ノ謄本ノ相當ノ負數ヲ差出ス可シ

第二十一条

行政裁判院ハ管轄ニ非ラサルノ著明法律上

期限ノ懈怠又ハ程式上要件ノ(第十四條第十八條第二十條)不備ナルハ依リ受理ス可ラスト看認ル抗告ハ別ニ手續ヲ為スナク却下スルヲ例トス又裁判シタル事件ニ對スル異議又ハ抗告ヲ為スニ付テノ正当能力ノ欠缺ニ関スル異議ニシテ其欠缺ノ著明ナルモノカ對立シアル抗告ニ付テモ亦同シ

法律上程式ノ要件不備ナル場合(第十八條第二十條)行政裁判院ハ其欠缺ヲ補フ為メ更ニ延長ス可カラサル短期間ヲ與テ抗告ヲ還却スルヲ得

抗告ノ却下又ハ還却ニ付テハ行政裁判院ハ必

密會議ニ於テ決定ス決定シタル却下ニ付テハ
攻撃ヲ受ケタル裁判又ハ命令ヲ為シタル行政
廳ニ通知ス、シ
行政裁判院ハ已ニ提起セラレタル抗告ヲ第廿一
條ニ依リ却下ス、キモト有認ノガ限ハ抗
告申立人ノ提出シタル謄本及添付書ヲ以テ被
告廳其他共同ニ訴ヘラレタル關係人ニ移示シ
答弁書提出ノ為メ命ス、十四日以上六十日以内ノ期
間ヲ定メ答弁ヲ命ス、シ
此期間ノ計算ニ付テハ抗告提出ニ付テノ期間
ト同一ノ規則ヲ適用ス、(第十五條、第十六條)

第廿三條
答弁書ハ正本ニ通テ以テ差出し且總テノ添付
書ノ謄本一本ヲ添付可シ
其正本ハ添付書ノ謄本ト共ニ抗告申立人ニ移
示ス可シ
行政裁判院ハ口頭審理ノ準備ニ必要ナリト着
認ムルハ、并駁書再答弁書ノ提出ヲ命スル、
此書面提出ノ期間ハ各場合ニ從テ定ム、但各三
十日ヲ超ルヲ得ス、(第十五條、第十六條)

前記ノ書面提出ノ懈怠ハ(第廿二條、第廿四條)審
理ノ繼續ヲ妨ケス

審理準備ノ為メ行政裁判院ハ當事關係人及行
政廳ヲ審問スルヲ得

行政廳ノ提出スルハ通信ヲ以テ之ヲ為スコシ

批告狀ニ第三者ニ對シ共ニ訴テ之ヲ明示シテ
ラサレ場合トモ氏(第十九條)行政裁判院ハ其實

行ス可キ手續中ニ於テ裁判ノ目的ニ關係ヲ有
スル總テ人ヲ審問シ其權利ヲ防護スル期會

ヲ興フル丁ニ注意スヘシ

書面審理ノ前手續終局ノ後行政裁判院長ハ第

六條ニ依テ為スヘキ裁判ニ非ラサル限り其争

訟事件ニ付キ公行ノ口頭審理期日ヲ定メ關係

ノ行政廳及當事者ヲ呼出ス可シ

審理ハ風俗及公然ノ秩序ヲ維持スルノ理由ニ

基キ裁判院ノ決定ニ依リ公行ヲ為サ、ルヲ
得キ場合ニ於テ各當事者ハ其信用スル者三名ヲ
入廷セシムルヲ求ムルノ權アリ

第三十條
 口頭審理ニ於ケル行政廳ノ代理人ハ裁定ニ對シテ抗告ヲ受ケタル者又ハ其事件ヲ主管スル者ヨリ選命スルハ町村ノ行政機關ノ裁定及命令ニ對シテ抗告アリタル場合ニ於テ代理人ハ右ノ各行政部ヨリ選命スヘシ
 第三十一條
 當事者ハ口頭審理ニ自ラ出廷シ又ハ代言人ニ代理セシムルヲ得
 行政廳及町村ハ各其部員中ヨリ選任スル代表人ヲ以テ代理權ヲ行ハシム

第三十二條
 口頭審理ハ專理員ノ報告演述ヲ以テ始ム
 裁判長ハ審理ヲ指揮シ公廷ノ取締ヲ掌ル又事件論議ノ遺漏ナキヲ付テハ職權ヲ以テ注意ス可シ
 行政裁判院ノ陪審員ハ同ヲ襲スルノ權アリ
 第三十三條
 手續ニ對スル異議并ニ手續ノ進行中ニ於テ爲ス申立ニ付テハ行政裁判院ハ決定ヲ以テ裁判ス
 第三十四條
 當事者又ハ代理人ノ缺席ハ審理及裁判ヲ妨止セス

判決正本ハ判決理由ヲ具シテ直ニ之ヲ當事者
送達スル可シ
抗告却可シタル場合ハ行政裁判院ノ手續
ニ於テ抗告申立人全部又一部ノ負担ヲ判決中
行政裁判院ハ抗告申立人又ハ場合ニ依リ其代
理人法律ノ明瞭ナル文面ニ對シ抗争シ又ハ其
他故意ヲ以テ漫シ抗告ヲ爲スル判然ナル所爲
ヲ科スルノ權アリ

罰金ハ抗告申立人ノ本住所ヲ定ムル地ノ貧民
救済資金中ニ納ル
審理ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ調書ニハ行政裁
判官列席ノ各負当事者又ハ其代理人及行政廳
ノ代理人ノ氏名ヲ記シ且審判期日ニ於ケル重
十ル事項ヲ記載スヘシ
公行セオルノ會議及決定ニ付テハ特別ノ調書
ヲ作ル可シ
各調書ニハ裁判長及書記署スヘシ
行政裁判院ノ判決ニ對シテハ故態回復ノ再審

ヲ許サス

行政裁判院審判手續ノ進行ノ如クハ

在テモ被告原告行政廳ヨリ抗告申立人ハ此中間時

ハ抗告申立人ヲ審問セテ裁可ニシテ裁院ノ決定ヲ

以テ手續停止ス可キ一週後裁院ノ決定ヲ手續ハ

再ヒテ開ク得ス行政裁判院ニ出ス代理

此法律於テ代理人行政裁判院ニ出ス代理

代言人ヲ用テル如ク代表ト為ス場合ニテ代理人ト

稱スルハ帝國議會ニ代表ト為ス場合ニテ代理人ト

云フニ於テ訴訟人ノ代理トナル權ヲ有スルモノヲ

第四十六條 行政裁判院内部ノ組織及執

行政裁判院内部ノ組織並ニ裁判責任ニ定

キ人資格ニ關シテハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定

行政裁判院ハ自ラ其職務規則ヲ起テ内閣

經由皇帝ニ呈出シテ批可ヲ乞フ可シ

行政裁判院ハ此法律ヲ帝國官報ニ公布シ三

月行政裁判院ハ此法律ヲ帝國官報ニ公布シ三

月行政裁判院ハ此法律ヲ帝國官報ニ公布シ三

月行政裁判院ハ此法律ヲ帝國官報ニ公布シ三

可	此	命	此	刑	警
キ	法	令	法	法	察
毛	律	第	律	ト	犯
ノ	ノ	五	有	連	罪
ト	實	十	効	續	事
ス	行	條	ト	ル	件
	=	判	十	テ	=
	付	院	ル	之	條
	キ	=	以	ヲ	施
	各	抗	前	規	行
	省	告	=	定	=
	ハ	ス	確	ス	付
	齊	ル	定		裁
	ニ	ヲ	ニ		判
	ク	得	タ		院
	此	ス	ル		規
	命	第	裁		定
	ヲ	廿	定		管
	奉	一	又		轄
	ス	條	ハ		ハ
					警
					察

